令和8年度　第1回南風原町下水道事業審議会

説明資料①

南風原町の下水道事業について

令和8年9月7日

南風原町役場　経済建設部
区画下水道課

①下水道事業の概要
- 下水道の仕組みと役割
- 南風原町の下水道事業

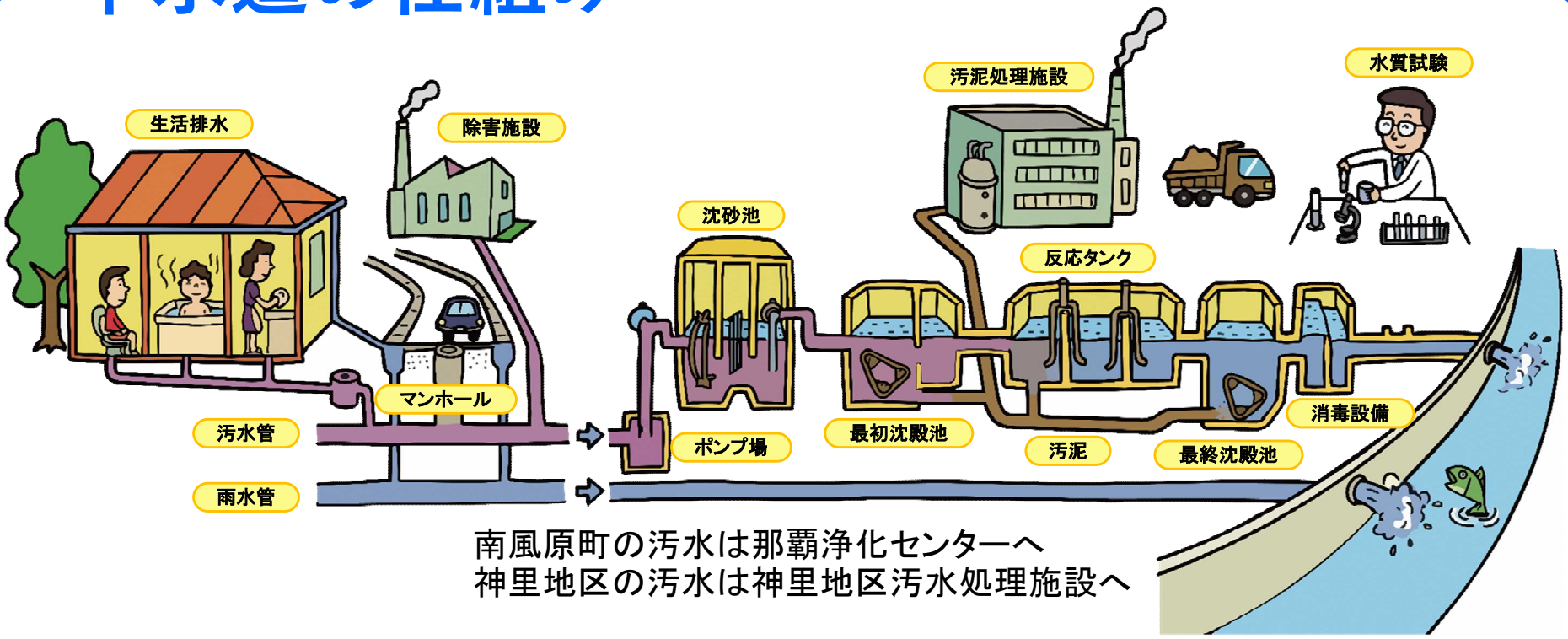
②地方公営企業としての下水道事業
- 地方公営企業の経営原則
- 下水道使用料の法的根拠

③南風原町下水道事業の経営状況

①下水道事業の概要

・家庭から排水した後はどこに行くのだろう・・・
・雨水はどこに行くのだろう・・・

下水道の仕組み



南風原町の汚水は那覇浄化センターへ
神里地区の汚水は神里地区汚水処理施設へ

下水道事業の沿革と処理のしくみ

- 整備前は、汚水がそのまま川や海に流れ、**悪臭や蚊・ハエの発生原因**となっていました。
- 本町は昭和54年度に事業着手し、昭和60年度から一部供用を開始しました。
- 本町の下水道事業では、汚水と雨水を別々の管で流す**「分流式」**を採用しており、分流式では、原則として汚水を処理したうえで放流します。



合流式

汚水と雨水を同じ管で流す

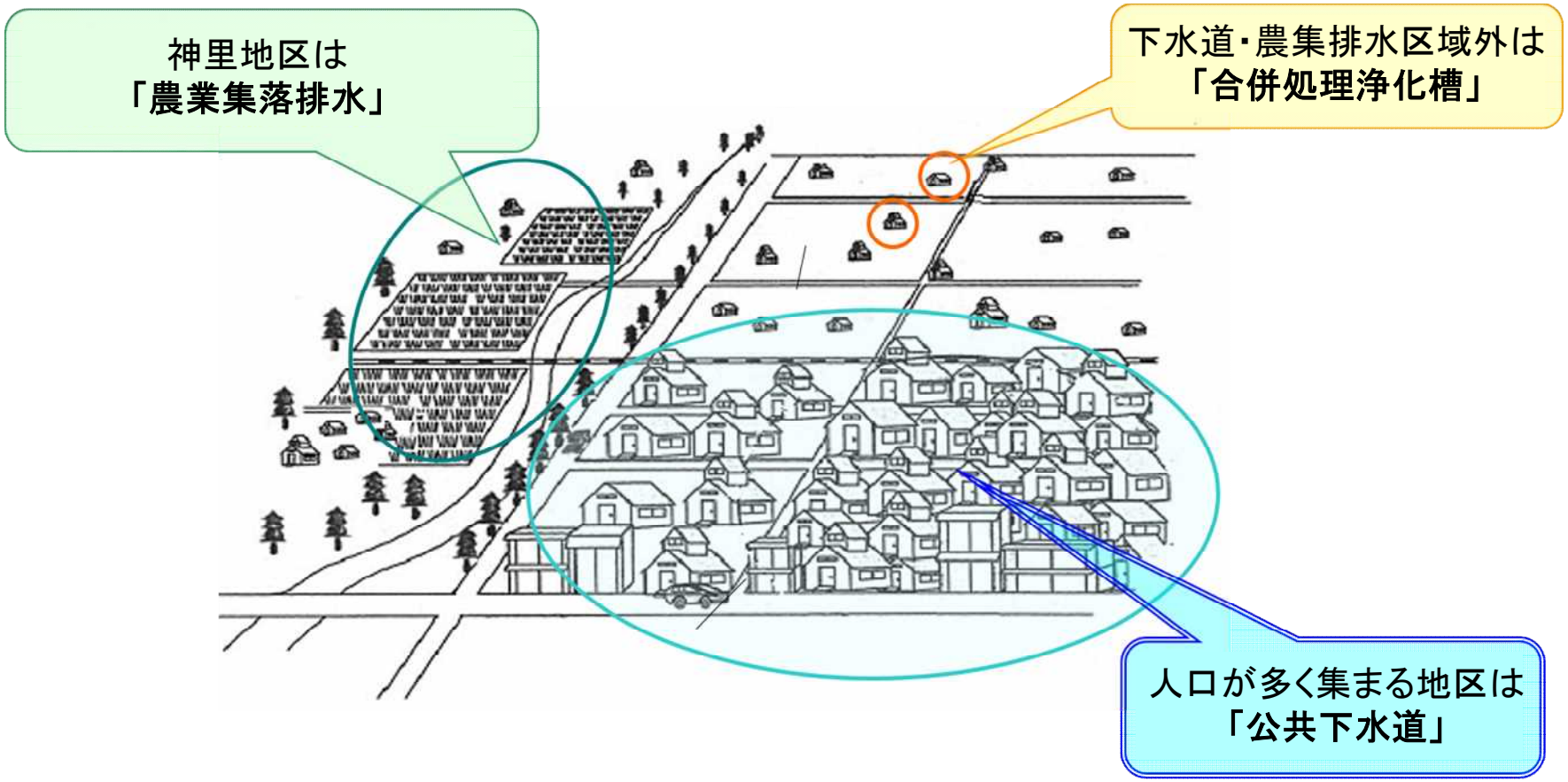


分流式（本町の方式）

汚水と雨水を別々の管で流す

南風原町の汚水処理施設

汚水処理施設とは、台所、洗濯、風呂、トイレなどからの生活排水を処理する施設です。南風原町では、「公共下水道」「農業集落排水」「合併処理浄化槽」の3つに分類されます。一方、「単独処理浄化槽」や「くみ取り」はトイレ排水のみを処理し、その他の生活排水は側溝へ流れるため、川や海の汚れの原因となります。このため、汚水処理施設への転換が必要です。

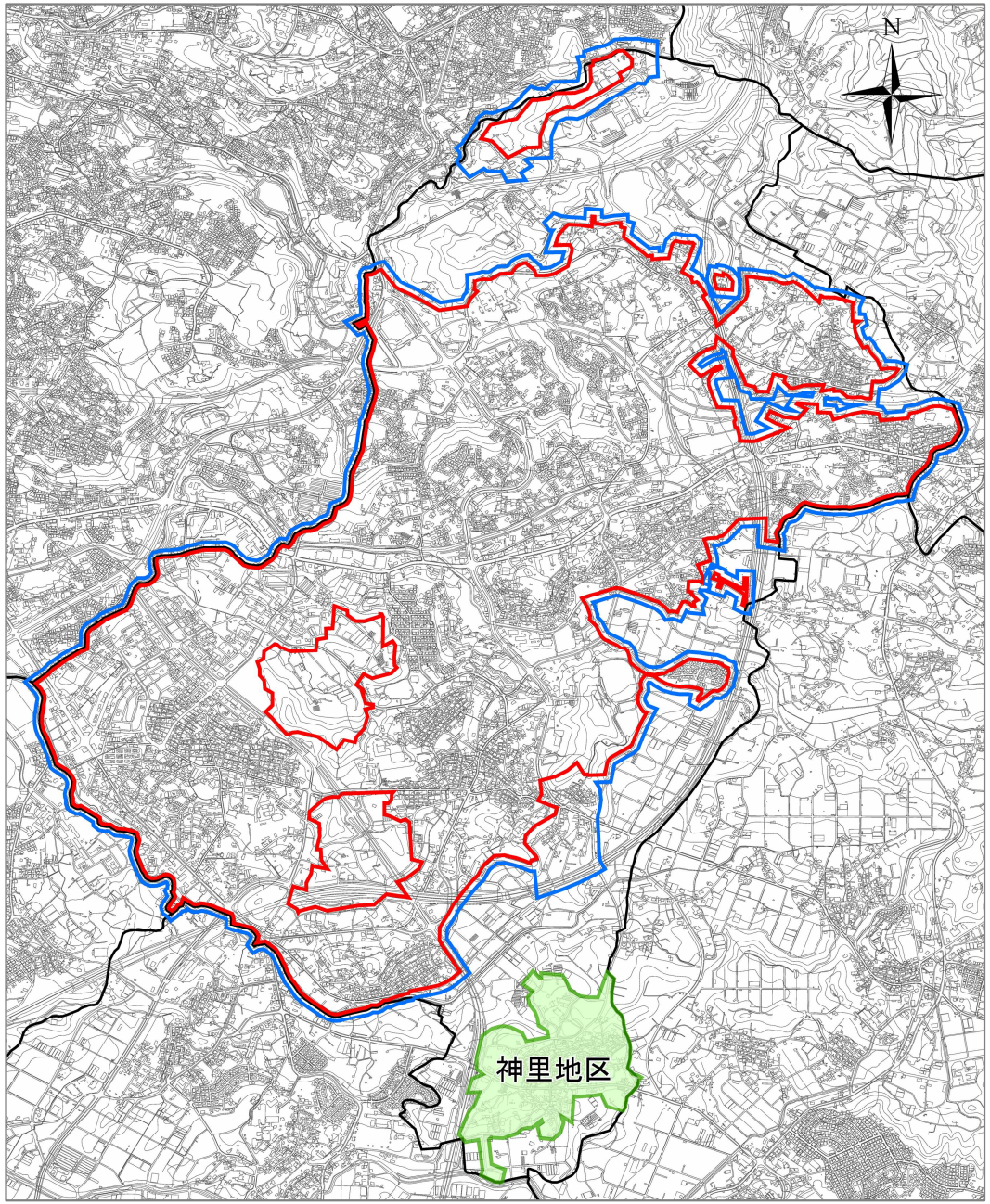


南風原町の下水道事業の状況

区分	令和７年度(R8.3末) 行政人口　41,325人		
	公共	農業集落排水	全体
A　全体計画区域内人口　人	40,419	906	41,325
B　接続可能人口　人	28,839	890	29,729
C　接続人口　人	24,994	740	25,734
下水道処理(接続可能)人口 普及率　B/A　%	71.4%	98.2%	71.9%
接続率　C/B　%	86.7%	83.1%	**86.6%**
未接続人口　B-C　人	3,845	150	**3,995**
年間有収水量　㎥	2,540,452	60,072	2,600,524
１日平均排水量　㎥	6,960	165	7,125

令和7年度末の接続率は86.6％で、下水道を利用できる人口のうち
約4,000人が未接続となっています。

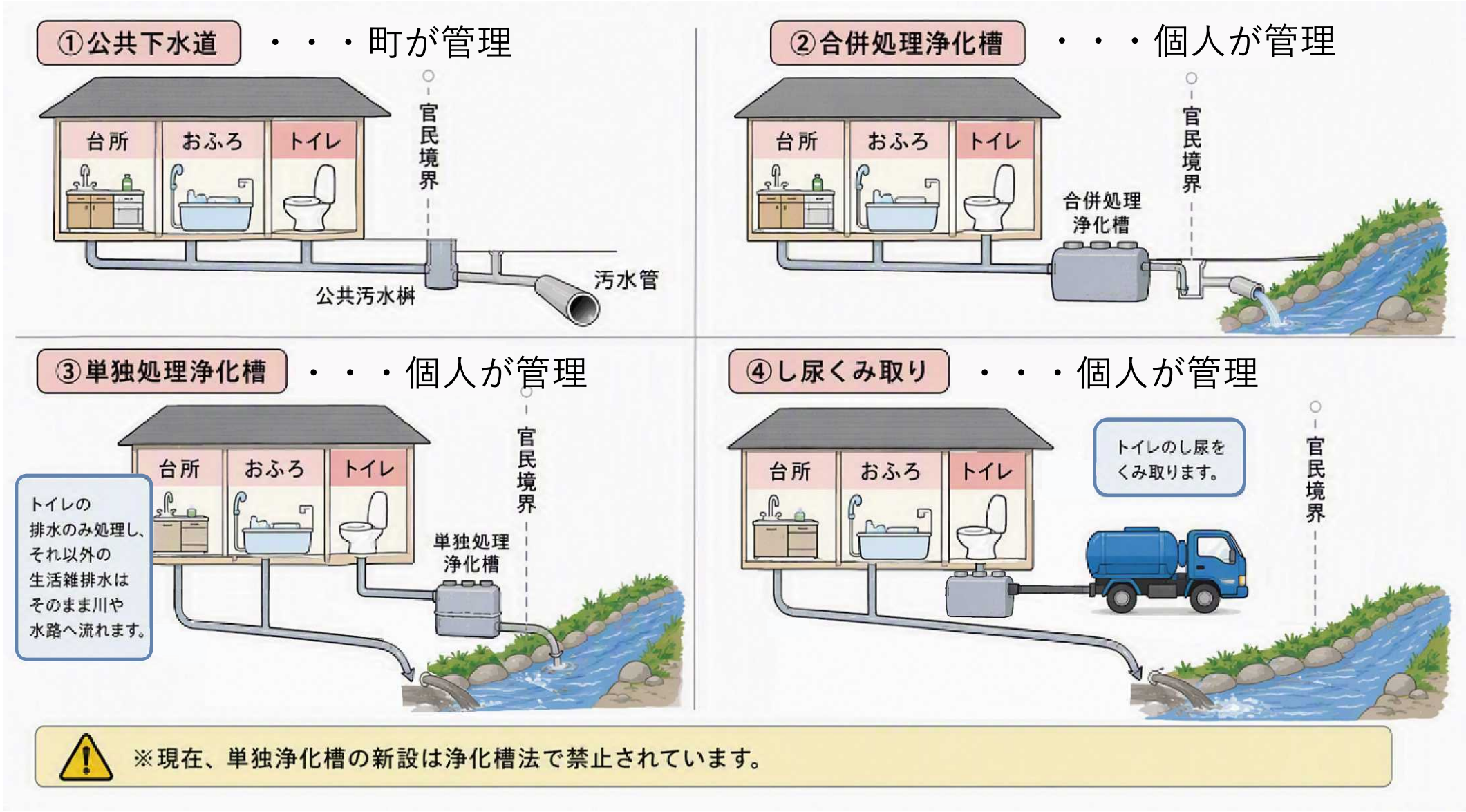
全体計画区域・事業計画区域



【全体計画区域】
将来下水道を整備する区域

【事業計画区域】
全体計画区域のうち、
優先度や財政状況等を考慮して、
５年の間に整備する区域

汚水処理の方法


①公共下水道 ・・・町が管理
台所
おふろ
トイレ
官民境界
公共汚水桝
汚水管
②合併処理浄化槽 ・・・個人が管理
台所
おふろ
トイレ
官民境界
合併処理浄化槽
③単独処理浄化槽 ・・・個人が管理
台所
おふろ
トイレ
官民境界
単独処理浄化槽
トイレの排水のみ処理し、それ以外の生活雑排水はそのまま川や水路へ流れます。
④し尿くみ取り ・・・個人が管理
台所
おふろ
トイレ
トイレのし尿をくみ取ります。
官民境界
※現在、単独浄化槽の新設は浄化槽法で禁止されています。

下水道の役割

汚水

1 生活環境の改善

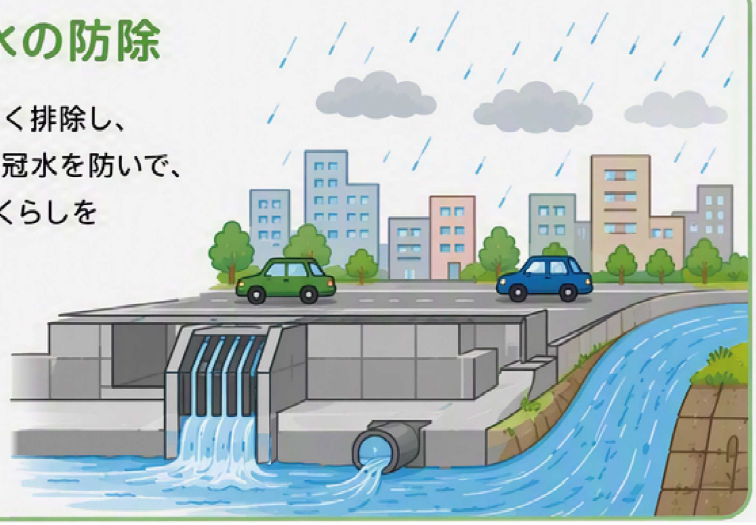
汚水をすばやく排除し、
悪臭や害虫の発生を防ぎ、
清潔で快適な生活環境を
つくります。



雨水

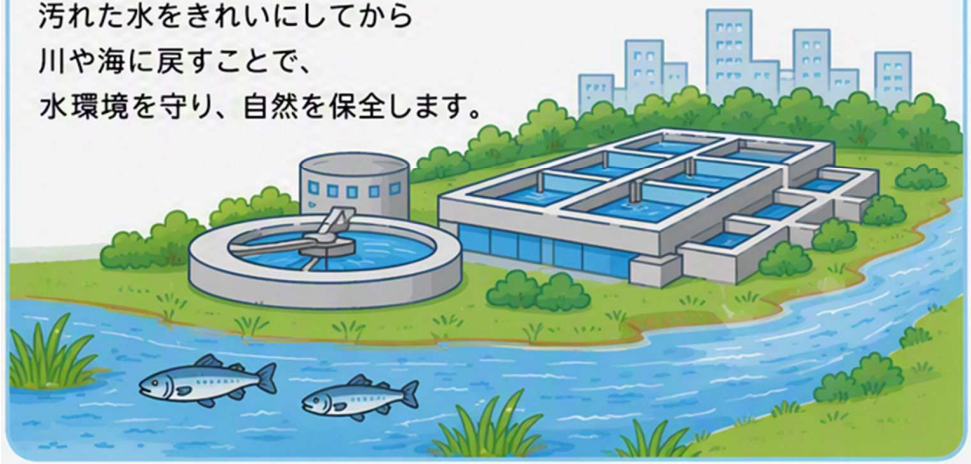
2 浸水の防除

雨水をすばやく排除し、
まちの浸水や冠水を防いで、
安全・安心なくらしを
守ります。



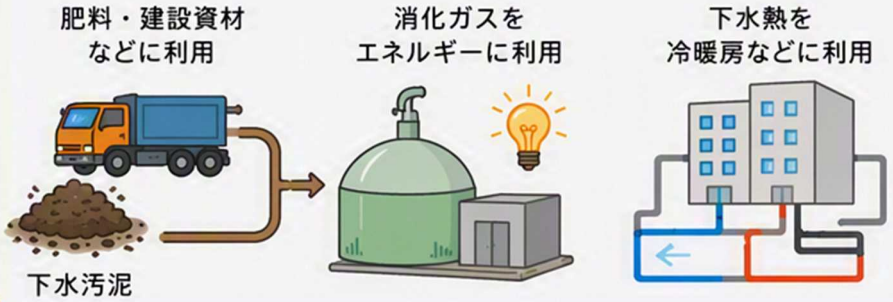
3 公共用水域の水質保全

汚れた水をきれいにしてから
川や海に戻すことで、
水環境を守り、自然を保全します。



4 資源・エネルギーの有効利用

下水汚泥や下水熱などを
資源やエネルギーとして活用し、
循環型社会の実現に貢献します。



②地方公営企業としての下水道事業

下水道事業の経営原則

①独立採算制の原則（地方財政法第6条）

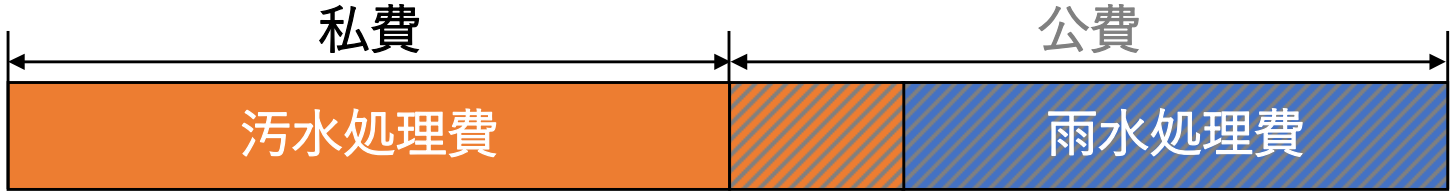
下水道事業は、地方財政法上の公営企業とされ、**下水道使用料**などの事業に伴う収入を基本として経費を賄い、自立性 をもって事業を継続していく「独立採算制の原則」が適用されます。

②経費負担の原則（地方公営企業法第17条の2）

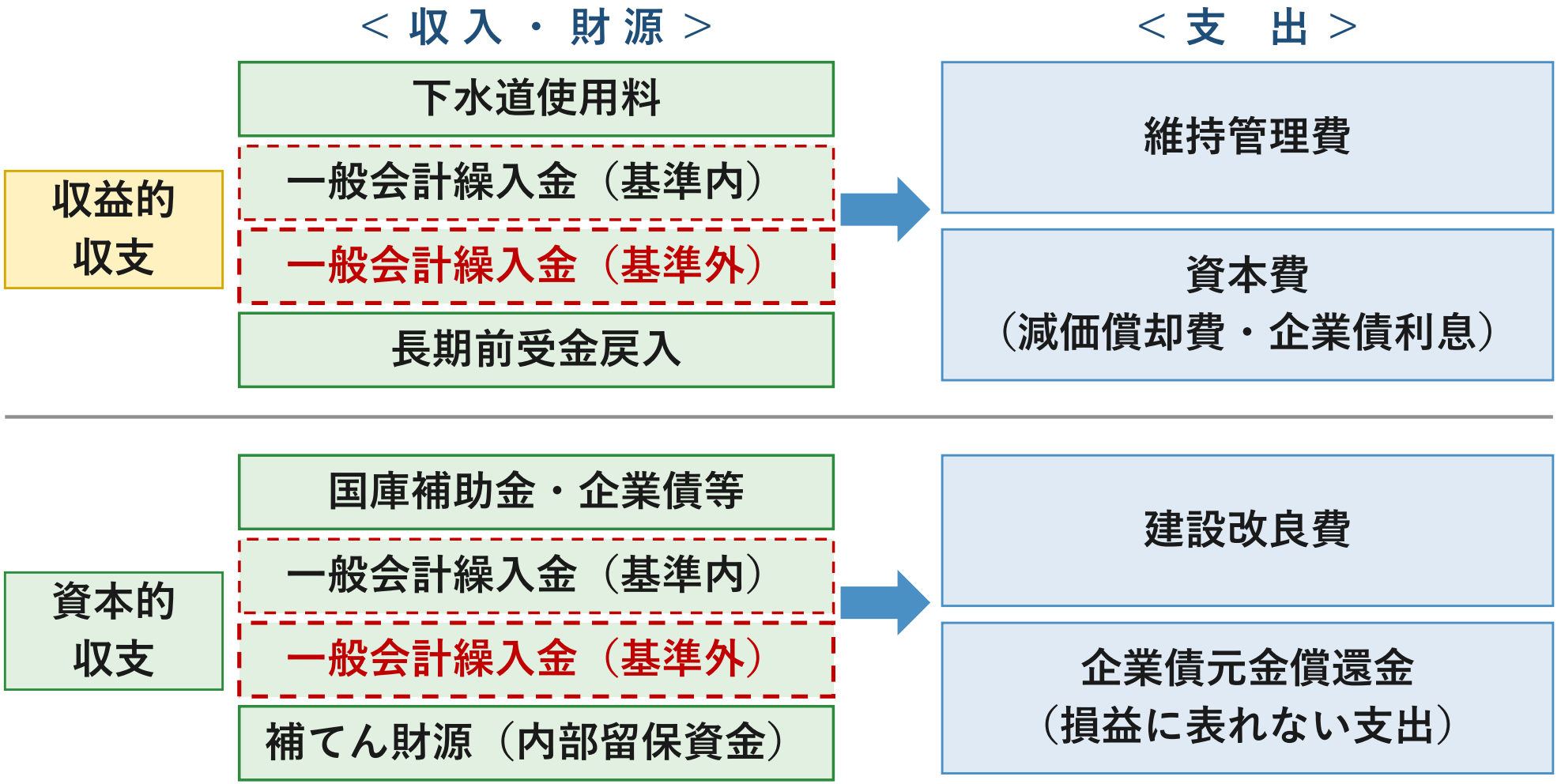
企業運営に必要な経費のうち、性質上、使用料収入をもって充てることが適当でない経費（雨水など）などは、**一般会計繰入金（基準内繰入金）**で賄うこととなっている

③雨水公費・汚水私費の原則（地方公営企業法第17条の2等に基づく経費負担区分）

下水道の管理運営に係る費用は、「**雨水は公費負担**」「**汚水は私費負担**」が原則となります。ただし、下水道が持つ公共の福祉（公共用水域の水質保全等）の視点により、汚水に係る費用のうち一定のものが公費負担と なります。



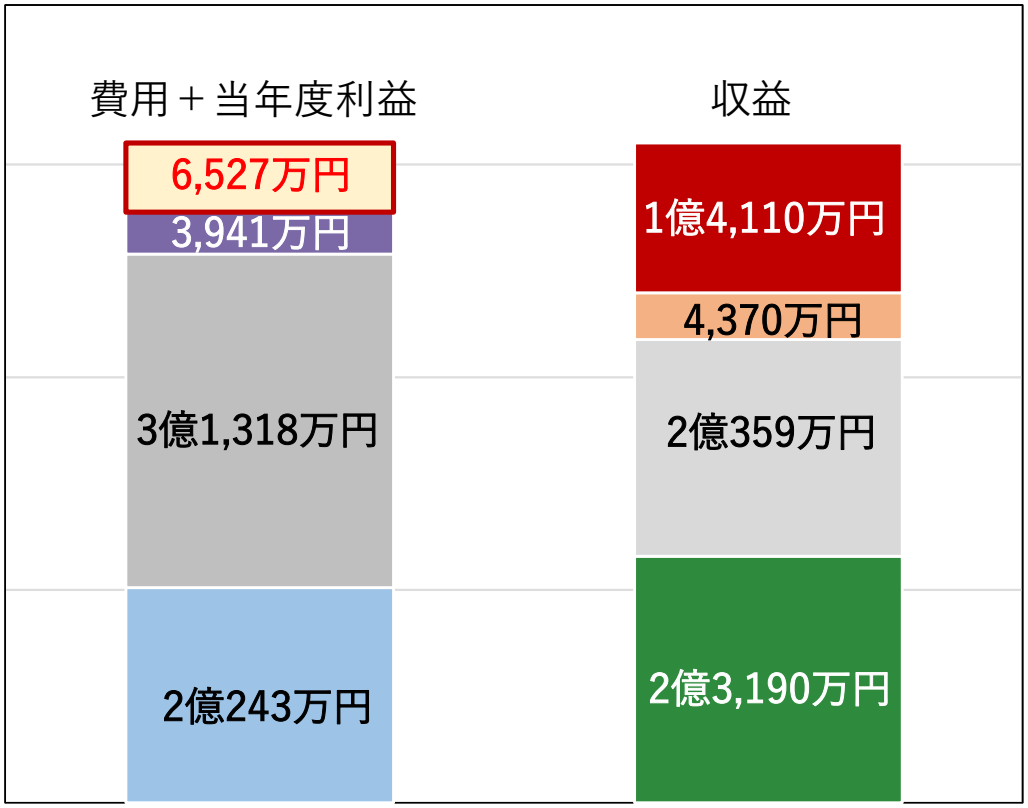
下水道事業会計の仕組み



基準外繰入金は、収益的収支や資本的収支の不足を補うために繰り入れています。

③南風原町下水道事業の経営状況

下水道事業の収益的収支（令和7年度決算）



凡　例　※印は現金を伴わない項目

- 維持管理費等
- 減価償却費 ※
- 支払利息
- 当年度利益
- 下水道使用料
- 長期前受金戻入 ※
- 繰入金（基準内等）
- 繰入金（基準外）

基準外繰入を除くと
▲ 7,583万円

当年度利益6,527万円が生じていますが、収益には**一般会計繰入金（基準外）**
1億4,110万円が含まれています。

※企業債の元金償還は資本的支出に計上されるため、この収支には含まれません。

使用料単価と汚水処理原価

● 使用料単価

有収水量1m³あたりの下水道使用料

＝ **使用料収入 ÷ 有収水量**

● 汚水処理原価

有収水量1m³あたりの汚水処理費用

＝ **汚水処理費 ÷ 有収水量**

● 経費回収率

費用をどの程度使用料で賄えているか

＝ **使用料単価 ÷ 汚水処理原価**

■ 令和7年度決算（公共＋農集）

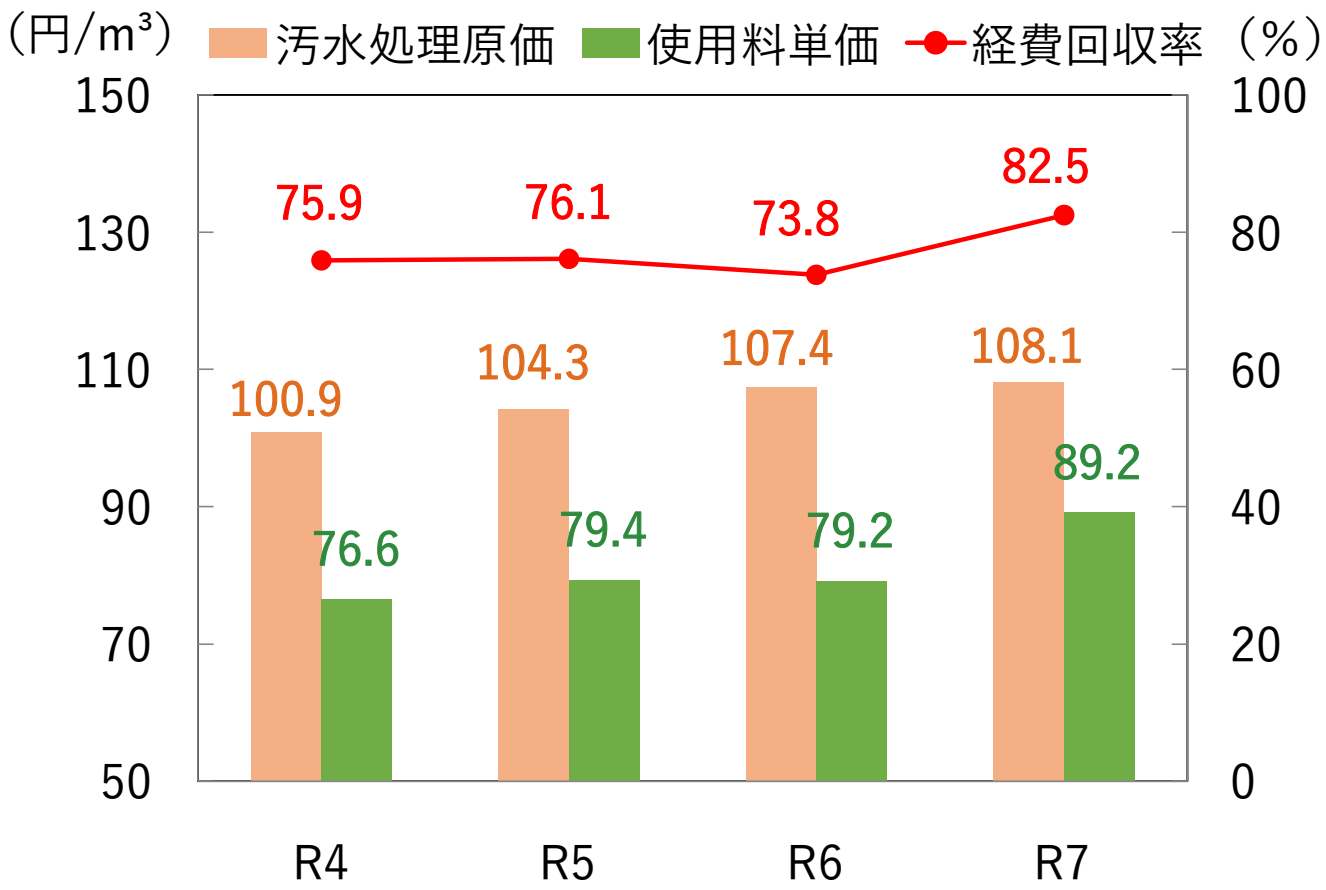
項　目	金　額
下水道使用料	231,901千円
汚水処理費	281,185千円
年間有収水量	2,601千m³
使用料単価	**89.2円/m³**
汚水処理原価	**108.1円/m³**
経費回収率	**82.5%**

費用 **108.1円**　使用料 **89.2円**

差額 **18.9円/m³**　年間約4,930万円

使用料で賄えていない汚水処理費が約2割あります。

使用料単価と汚水処理原価の推移



■ 経費回収率（%）

年　度	回収率
令和4年度	75.9
令和5年度	76.1
令和6年度	73.8
令和7年度	**82.5**

汚水処理原価は上昇傾向

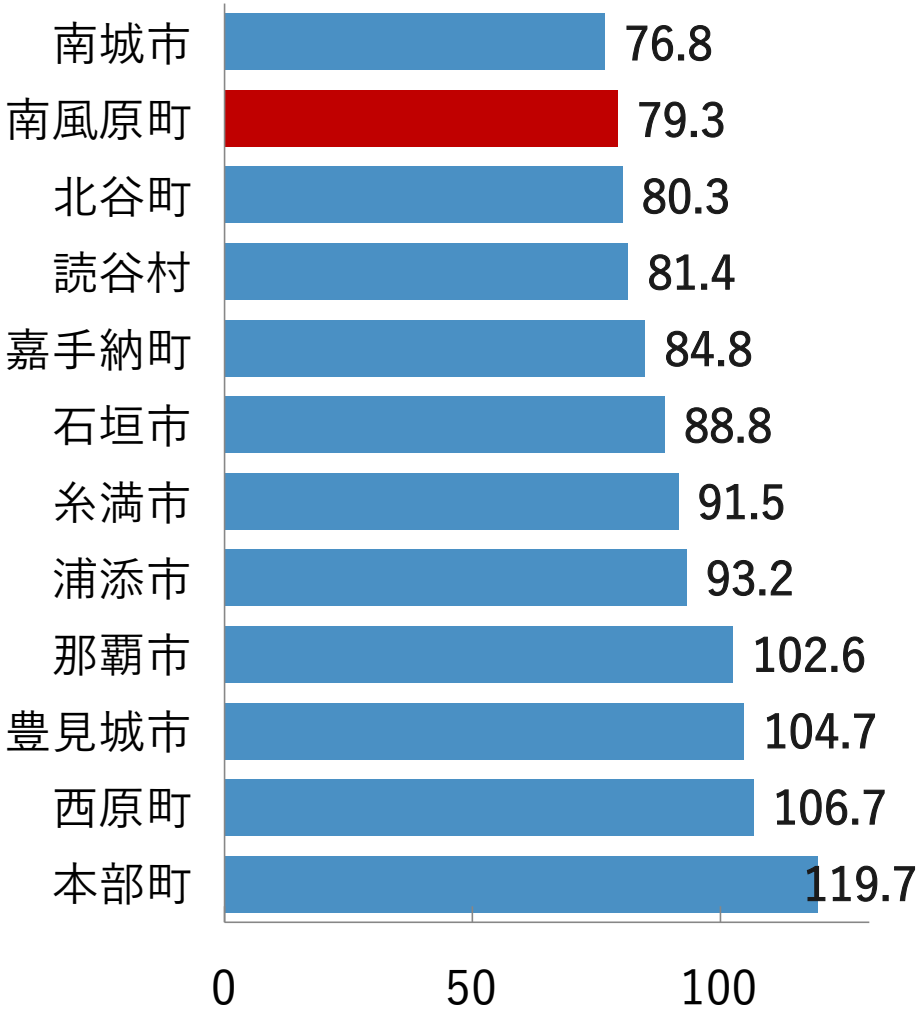
100.9円 → 108.1円

- 汚水処理原価は令和4年度以降、一貫して上昇しています。
- 令和7年度は使用料改定（改定率15.4%）により経費回収率が82.5%に上昇しましたが、100%には達していません。
- 今後、流域下水道維持管理負担金単価の引上げや施設更新が、汚水処理原価の上昇要因となることが見込まれます。

県内他市町村との比較（令和6年度・公共下水道事業）

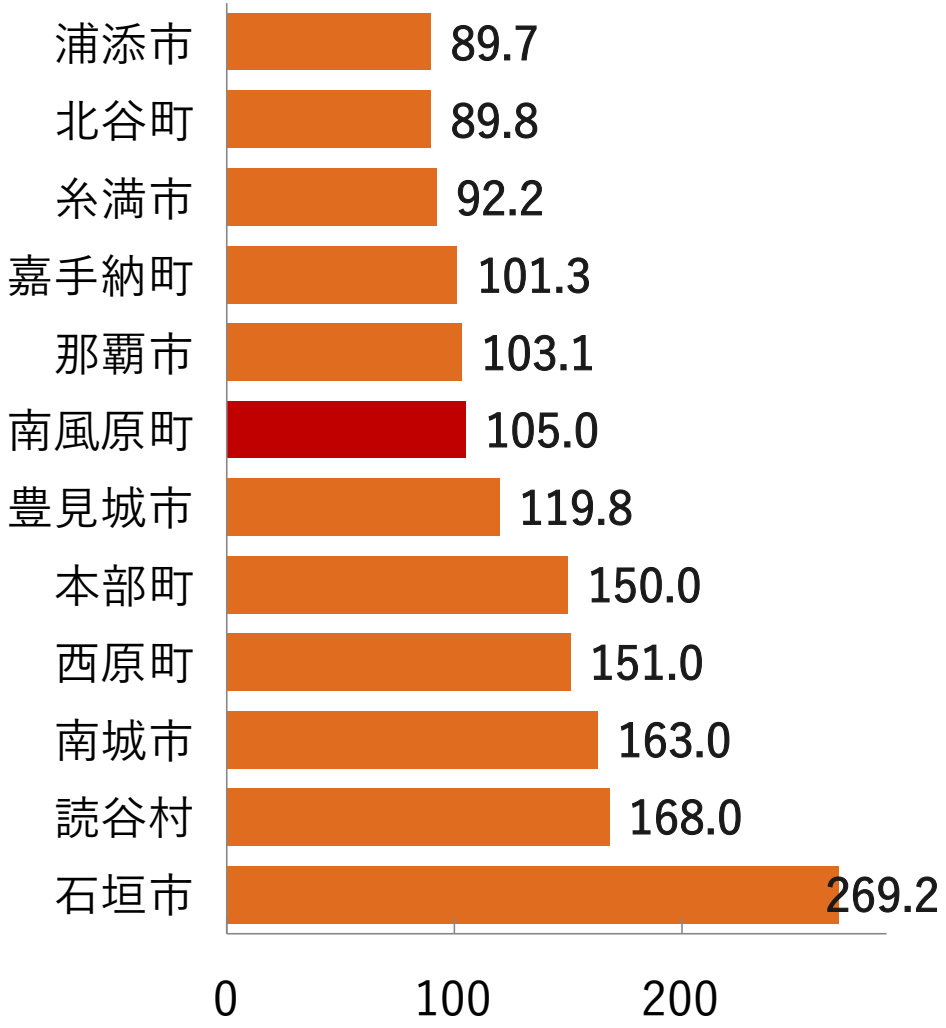
使用料単価（円/m³）

県内20団体中 2番目に低い



汚水処理原価（円/m³）

県内20団体中 7番目に低い



処理コストは低い水準にありますが、使用料も低い水準です。

※赤＝南風原町　青橙＝県内20団体のうち12団体を抜粋(順位は20団体中)　出典：地方公営企業決算状況調査(令和6年度)

経営状況の課題

1 汚水処理費の約2割を使用料で賄えていない

令和7年度の経費回収率は82.5％

2 基準外繰入金を除くと収益が不足

基準外繰入金を除いた収支は7,583万円の不足

3 汚水処理原価は上昇傾向

使用料単価は県内で2番目に低い水準

今後も、接続率の向上や経費削減を進めるとともに、適正な使用料水準について検証していく必要がある